



上智大学短期大学部

SOPHIA UNIVERSITY JUNIOR COLLEGE DIVISION

令和3年(2021年)12月10日

通信 第98号

編集・発行 上智大学短期大学部

2021年度 SJ祭

2021年度SJ祭を終えて

SJ祭実行委員会顧問 森下 園

今年度のSJ祭もキャンパスでの全面開催はできず、昨年に引き続いての動画コンテンツと10月23日(土)の秦野キャンパス中庭ステージ企画の生配信の2本立てで実施となりました。今年のテーマは「From Here to the Future ~未来へ向かう物語~」でした。はじめての生配信企画の準備、離れた場所にいる委員たちと協力しての動画コンテンツ作成と、今年度のSJ祭実行委員たちは例年になく苦勞を乗り越えてSJ祭開催にこぎつけました。ステージ企画でご挨拶くださった秦野市長高橋昌和さま、本学ソフィア会会長平野由紀子さま、同副会長濱口紀子さまには厚く御礼申し上げます。今年度のSJ祭を率いた実行委員長と二人の副実行委員長、実行委員たちを支えてくださった事務センターの小林さん、ご協力くださった教職員・学生の皆さんに心より御礼申し上げます。



ステージ企画(ダンスサークル)

SJ祭実行委員長・副委員長からのコメント

SJ祭実行委員長 齊藤 唯吹

新型コロナ禍で委員が集まりにくくコミュニケーションが取りづらい中、生配信という初めての大きなプロジェクトを実行するのは大変なことでした。メールやラインの文章だけでは意見や気持ちを十分に分かち合えないことを痛感した日々です。十分なことはできなかったと後悔していますが、このSJ祭準備の過程で学べたことは多かったと思います。交わす言葉の大切さも学びました。皆でSJ祭開催を無事やり通すことができたことには、本当に感謝しかありません。多くの困難があった今年度のSJ祭準備でしたが、こうして無事に終了できたことを嬉しく思います。SJ祭を支えてくださった方々、実行委員の皆さんに、心から感謝申し上げます。

同副委員長 田平 彩乃

今年度もSJ祭をサポートしてくださった皆さま、本当にありがとうございました。新型コロナの影響により明日への道筋も見えない中、SJ祭は成功し、私たち実行委員も安堵の気持ちでいっぱいです。通常のSJ祭ではあった模擬店などがなくても視聴者の方々に満足していただけるようなコンテンツ作りに尽力いたしました。来年度のSJ祭も楽しみにしていただけ

同副委員長 西川 結菜

たらと思います。視聴くださった皆さん、ありがとうございました。

前日のリハーサルでは天候に恵まれず、一回も中庭ステージでの練習ができず本番を迎えました。しかし各企画参加者の皆さんは練習を重ねてくださっていたので、スムーズに進めることができましたし、当日は各実行委員たちが自ら何をしたら良いのかをその場で考えて臨機応変に動いてくれたため、大きな問題が起こることなく無事にSJ祭を終えることができました。頼りないリーダーであったと思いますが、皆さんが助けてくださったので私も使命を果たせたと感じています。外部との連絡や当日のステージ運営は大変なこともありましたが、実行委員たちと協力し楽しく活動できました。副実行委員長を務めさせていただき本当にありがとうございました。



生配信を担当した実行委員たち

ハイフレックス型授業の全学的実施について

2021年度には、コロナ禍への対応のため、全学的にハイフレックス型授業を導入しました。まずは本学におけるハイフレックス型授業についてご説明しますと、教室での対面授業を前提とし、教員はキャンパス内の教室で授業を行い、学生は教室かオンラインのどちらで受講するか選択します。教室での講義内容、学生の様子や発言内容は、カメラやスピーカーを通じて、オンラインで受講する学生に届き、オンラインの学生の発言もZoomを通じて教室に共有されます。そのような形態で全学的に授業を実施することを決めた主な理由として、本学が英語科単科の短期大学部であり、リアルタイムでのコミュニケーションを重視していること、また英語科目以外でも学生が主体的かつ能動的に学ぶアクティブラーニングを実践する科目があることが挙げられます。また一部の科目はオンデマンド型で実施されていますが、こちらは教員がオンライン上に講義の動画や資料を提示

し、学生はそれを基に課題に取り組み、提出するといった形を取ります。オンデマンド型の授業は、教員や教員の家族の基礎疾患及び年齢が原因となり、教室での対面授業が難しい場合等に実施されます。2021年度におけるハイフレックス型授業とオンデマンド型授業の割合は、開講科目計263(内訳:春学期127科目、秋学期126科目)の中で、春学期と秋学期にそれぞれ3つのオンデマンド型授業を行う科目がありますが、それらを除いた全ての科目でハイフレックス型授業を行っています。

全学的なハイフレックス型授業の導入前の昨年度秋学期から、一部の必修科目を専任教員がハイフレックス型で実施し、効果的な授業運営について検証を重ねてきました。2021年3月には本学ファカルティ・ディベロップメント専門委員会主催で、全教員を対象にワークショップ「オンライン授業の工夫と実践・ハイフレックスへの備え」を開催しました。施設に

英語科長 永野 良博

についても、遠隔で学ぶ学生とキャンパスで学ぶ学生、そして教員とが双方向のコミュニケーションが出来るようスピーカーシステムを設置し、LANのアクセスポイントを増設し、また学生が持ち込むPCの増加に備え、電源を増設しました。学期中には、ハイフレックス型授業実施について教員が大学側と相談する窓口を、継続的に設けています。

コロナ禍においても、本学の卒業認定・学位授与の方針が定める能力獲得に向け、学生が最大限に学習成果を得られるよう、今後も教育改善を重ねて参ります。



FACULTY VOICE

2020 Fall Semester Sabbatical Report

准教授 Timothy Gould

Before the Covid-19 pandemic curtailed most international travel, I had planned to spend my 2020 fall sabbatical semester in Paris, France. My research there was going to focus on a group of American expatriates writing in Paris after World War I who are often referred to as the 'Lost Generation.' While this study never came to fruition, I was nevertheless able to spend a productive sabbatical working here in Japan and making progress on a long-term research project that I began soon after I came to Sophia University Junior College Division (at that time Sophia Junior College) in 2006.

My research project is based on conversations in English conducted by (for the most part) L1 speakers of Japanese. I analyze the collected data according to the conventions of both Conversation Analysis and Corpus Linguistics, depending on the particular linguistic issue under consideration. My motivation for this work is based on the simple desire to try to gain some insights into how students deploy their English in a more or less unstructured environment.

As teachers at SUJCD, we spend much of our time trying to help our students develop the communicative skills and cultural awareness that will allow them to participate fully in the types of interactions we imagine they will encounter after transferring to a four-year university, embarking on a study abroad, or entering society and beginning to participate in the world at large. We assess students' progress based on the information we have assigned through homework, independent learning, presentations, and other activities. Sometimes we may even include some testing/assessment of students' conversational abilities. We also work with students to improve their TOEIC scores and help

them to learn the strategies that will help them to succeed on it and other standardized tests. While all this is valuable, and indeed forms an important part of the foundation of our mission, I have long been curious how students at SUJCD might use their English outside of a formal classroom or testing setting when there are no teachers present, no native speakers in the conversation, and when there are no specific pedagogical goals to guide their interactions with each other.

To this end, I videotape small groups, each consisting of three students, engaging in unstructured conversations of 10 minutes. I have been collecting this data for many years, but the transcribing process is extremely time consuming, so I have been able to collect far more data than I have been able to transcribe and analyze. However, during my sabbatical, I was fortunate to spend my time making transcripts and conducting some preliminary analyses of the conversations I have been collecting. Some of the questions I am trying to answer through analysis of my data include: How do students organize their conversational discourse? How do they handle situations where they do not understand each other or forget a word? What strategies are used to make sure the conversation moves forward and does not 'collapse'? Do conversational 'leaders' emerge? How are topics decided? What types of topics are discussed? And many more.

While this valuable sabbatical semester has allowed me to make some much needed progress in my work, since I did not travel at all and only took the occasional walk along the Mizunashi River, I do not have any interesting anecdotes to share about the places I have visited or the academic meetings I attended. But if you have any questions about my work, please feel free to ask anytime!

2020年度・2021年度9月 学位授与式

第47回学位授与式が2021年3月12日(金)に秦野キャンパスにて執り行われ、243名の学生が本学を巣立った。式は、午前と午後の2部制とし、会場への入場は卒業生だけに制限されたが、保証人の方にはYouTubeでライブ配信が行われた。山本浩学長は式辞で、「皆さんは2年間の後半をコロナ禍で過ごし、入学時には予想もしなかったオンライン授業を受け、友人との交流や課外活動が制限される中でも努力を続けた。卒業の日を迎えられたことに大なる敬意を表す。皆さんが生きる21世紀は大きな変化の時代であり、新型コロナウイルス収束後には、社会の仕組みや在り方も大きく変わると言われている。そのような中で、大切なことはしっかりと自分の考えを持ち、自立した人間として生きること。自分の頭で考え、判断し、進むべき道を見つけてほしい。上智の教育が何よりも大切にしている「Men and Women for Others, with Others」(他者のために、他者とともに)という精神をそれぞれの進路でも実践してほしい」との期待を述べ、卒業生を祝福した。

また、2021年9月21日(火)に2021年度9月学位授与式がハイフレックス形式で行われ、11名の学生が学び舎を後にした。



2020年度・2021年度 入学式

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった2020年度入学生のための第48回入学式が約1年遅れとなる2021年3月30日(火)に秦野キャンパスで行われた。2020年度に入学した261名を改めて歓迎した。翌月4月3日(土)には、2021年度入学生のための第49回入学式が秦野キャンパスで行われ、185名の新入生が入学した。どちらも午前と午後の2部制とし、式の模様はYouTubeでライブ配信された。

佐久間 勤上智学院理事長は祝辞で、2020年度入学生には、教皇フランシスコが2019年11月に上智大学を訪れた際に強調された「最善の価値とは何かに気づき、それを意識し、責任を持って自由に選び取る行為である識別を身に付けて卒業してほしい」というメッセージを紹介した。「これまで日々の授業や学びにおいて、皆さんは思索と識別の日々を積み重ねてこられた。この式典をきっかけに上智で学ぶということはどういう意味があるのか、何を求めてここにいるのか、という問いを意識しているであろう。将来何を目指して生きるのか、目標を心に刻んで、勉学に励んでほしい」とこれからの学生生活を励ました。

また、2021年度入学生には、「希望のないところに進歩はないということわざがあるが、希望し、目指すものが優れていればいるほど、それを求める人を優れた人間へと成長させることを意味する。入学のこの時にそれぞれで自分の心の中にある希望とは何であるか問いかけてみてほしい。本学は英語というコミュニケーション手段に習熟することで、グローバルで多様な世界の中で人々を結び、誰一人取り残されることがない共生社会を実現するための課題に取り組めるよう、様々な機会とチャレンジを提供する。他者のために他者とともに生き、学ぶという希望を持って入学した新入生の皆さん、他者への愛に基づく希望に導かれ、全ての者を愛する対話の姿勢をしっかりと持って、学業を全うされることを祈る」とのメッセージを贈り、学生を歓迎した。

2020年度 学長賞

2020年度の学長賞は、2021年3月12日(金)に執り行われた第47回学位授与式にて、ブレッドモアジェイミー イディスさんと廣澤 未樹さんに授与された。2人は共に、サービスマーケティング活動(カレッジフレンドとコミュニティフレンド)に参加して地域貢献に尽力、正規の時間外にもボランティアとして熱心に取り組む、本学の教育の精神である「Men and Women for Others, with Others」を実践したとして、受賞に至った。

2021年度 学業優秀賞

2021年度学業優秀賞は、前年度の成績を基に2年次生7名が選出された。

新型コロナウイルス感染症予防対策として参加者を最小限に抑えながら、授与式を2021年4月29日(木)に4号館第2会議室にて行った。山本 浩学長から賞状と副賞として5万円の目録が贈られた。受賞した学生はそれぞれ、名誉ある賞を授与されたことへの感謝とこれからも高みを目指して努力することを誓い、受賞の喜びを語った。学長からはお祝いの言葉に加え、コロナ禍でのオンライン授業において優秀な成績を収めたことを称え、残りの一年間も勉学に励んで活躍されることを期待するとの激励の言葉があった。





卒業生の皆さまへ

上智大学短期大学部ソフィア会会長 平野由紀子

10月にSJ祭で久しぶりに秦野キャンパスを訪れました。美しい富士山に出迎えられ、あっという間に学生時代に戻ったような気がしました。母校とは、そういうところ。時間も空間も超え、自分たちが一番輝いていた頃の思い出を懐かしみ分かち合うことができる、そのお手伝いをソフィア会は行っています。



けれども、ホームカミングや卒業の節目をお祝いする銀祝（卒業25年目）ルビー祝（卒業40年目）の式典の開催は、この2年間でできませんでした。世界も学校も私たちが模索しています。良い方向に解決するよう、どうぞ皆さまのお知恵とご経験を共有させてください。

また、後輩の学生たちの若々しい笑顔を見ることが出来るのは、卒業生にとって一番の喜びです。バリー賞をはじめソフィア会奨学金、寄附講座、スクールバスの一部補助など、学生支援を続けています。2023年には創立50周年を迎える母校に少しでも貢献できますよう、また長い歴史を共に歩んできてくださった恩師の皆さまはじめ先輩・友人・後輩たちと再会できますように、ソフィア会活動へのご協力を引き続きよろしくお願い致します。

2021年度 オンラインSJ祭 祝典に寄せて

上智大学短期大学部ソフィア会副会長 6期生 濱口紀子

2020年度にルビー祝を迎えられた6期生の皆様、銀祝を迎えられた21期生の皆様、2021年度にルビー祝を迎えられた7期生の皆様、銀祝を迎えられた22期生の皆様、心よりお祝い申し上げます。新型コロナウイルスの感染が収まらず、2年連続で秦野キャンパスでの式典開催は叶えられませんでした。しかし新しい生活様式の下で私達はコミュニケーションを取り合いながら、間も無く訪れるであろう再会を心待ちにしています。同級生達と懐かしいキャンパスで集い笑い合う事は、40年もの歳月を、一瞬にして戻してしまうのです。



学生時代の大きな思い出の一つは、大学祭をスタートさせた事です。1978年に入学した私達は、5期の先輩方と第1回十月祭（現在のSJ祭）を開催しました。大勢のお客様をお迎えし、各クラスやサークル等の工夫を凝らした催し物で盛り上がる中、校舎のあちこちに流行りのディスコが現れたのも時代を反映していました。

1年生の私のクラスは上短の素晴らしさを内外にアピールしようと、バリー学長やクラスメイト達にインタビューし発表したのですが、カセットテープにスライドとは時の流れを感じてしまいます。

私は卒業後10年間企業に勤務した後、海外での子育ても経験しました。帰国後はやはり英語教育に携わってみたいと、小学校の英語講師や外国人児童への日本語指導、英語教室開催等、気が付けば母校の『サービサーニング活動』を実践していたのです。

短大での2年間で、かけがえの無い友人と共に様々な価値観に触れ、他人の為に働き、挑戦する心を培う事が出来ました。

上智大学短期大学部は2023年に創立50周年を迎えようとしています。先輩方から受け継がれた伝統を守り更に前進して行く為に、私も微力ながらお役に立てればと思っています。



「2021年度 ルビー祝・銀祝 来年度以降へ延期」のお知らせ

2021年8月の時点で新型コロナウイルスの感染拡大状況が悪化し、今年度のルビー祝・銀祝の延期を決定しました。該当の期の卒業生のみならずはお知らせを郵送して周知させていただきました。今後は、ルビー祝・銀祝の式典、祝賀会の開催形態なども見直しが必要になってくるのでは、と役員会としては検討を始めています。

第47回 学位授与式（2021年3月12日）

ジェラルド・バリー賞の受賞者 中尾 妃夏さん

卒業という大きな節目において、ジェラルド・バリー賞という名誉ある賞を頂くことができ、大変嬉しく思います。

振り返れば上智大学短期大学部での2年間、私は「自分は将来誰のために何をやる人間になりたいのか」について考えていました。そのため、幅広い講義と学内外での活動を大切にしてきました。そしてこうした中で次第に、自分の将来像を見据えるようになりました。このような充実した学生生活を送ることができたのは、多くの方々の支えがあったからです。実際に私は、入学当初から編入学試験に向けて大きくなる不安に押し潰されそうになりながら、課題やテストのための学習と編入学試験に備えた勉強をしていました。そうした時に、先生方や事務センターの方々、周りの学生、家族など多くの方々が声をかけて下さり、安心することができました。

4月からは、上智大学総合人間科学部社会科学科へ編入学します。社会的弱者に対する差別や偏見が絶えない状況において、私はこれから獲得する新たな学びを単に社会的地位や物質的な満足感を得るためではなく、「他者のために、他者とともに」生かせる人間になりたいです。

最後になりますが、上智大学短期大学部の益々のご発展と同窓生の皆様のご多幸をお祈りしております。この度は、本当にありがとうございました。



2021年度 オンライン総会の報告

2020年に始まった新型コロナウイルス感染症は、今年度も引き続きいろいろな影響を及ぼしています。今年度のソフィア会総会も昨年度同様、ホームページへの掲載をもってご報告とし承認とさせていただきますことになりました。6月15日の時点にて会員のみなさまの承認をいただきました。2020年度の決算報告書はホームページには簡易版を掲載しました。こちらも参照ください。

上智大学短期大学部ソフィア会(同窓会) 2020年度 決算報告				
(2020年4月1日～2021年3月31日) 2021年3月31日現在 (単位:円)				
	費目	金額	備考	
収	前年度繰越金	23,814,222		
	2020年度収入			
	入	同窓会会費	5,230,000	2020年度入学者(20,000円×267人) 中途退学者返金分110,000円含む
	部	総会及びルビー・銀祝参加費	0	ルビー祝・銀祝参加費、祝状代
		寄付金預かり	0	バリー賞募金、被災者学生支援金
	利息	227,982	上智学院預り金利息、普通預金利息	
	(2020年度収入小計)	5,457,982		
	合計	29,272,204		
	費目	金額	備考	
支	短大通信送付費用	0		
	総会通知郵送費	0		
	ルビー祝・銀祝通知郵送費	37,367		
	パーティー代その他	0	ホームカミング、ルビー・銀祝ケータリング、 賞品代等	
	通信費	127,106	同窓会事務局通信費(インターネット料金等)	
	交通費	3,780	役員交通費、キャリアアプランニング講師交通費等	
	文具及び消耗品費	193,911	プリンターインク代、文具・コピー代、卒業生配布クリアファイル代、同窓会案内チラシ代等	
	会議費	55,717	オンライン会議ツール代(ZOOM)	
	郵送費	2,050	郵便代、宅配便代等	
	広告宣伝費	389,416	短大ソフィア会HP維持管理費、同窓会紹介ビデオ制作費等	
	慶弔費	0		
	交際費	0		
	送金手数料	4,510		
	寄付金	2,163,200	2020年度奨学金(90万円)、新型コロナウイルス学生支援金(125万円)、国連WFPへの寄付金(13,200円)(SJ祭グッズ協賛として)	
		(2021年度支出小計)	2,977,057	
	次年度繰越金	26,295,147		
	合計	29,272,204		

2020年度 グッドティーチング賞

2020年度グッドティーチング賞に杉村 美佳准教授と小金沢 裕美子非常勤講師が選出された。グッドティーチング賞は、教育実践に顕著な成果をあげた教員に対し、その功績を表彰する制度で、学生による授業評価アンケートの結果も選考基準の一つとなっている。

受賞に際し、杉村准教授から以下のコメントをいただいた。



杉村美佳准教授

このたびは大変光栄な賞をいただきまして教職員の皆様、学生の皆さんに心より感謝申し上げます。昨年度はコロナ禍で初のオンライン授業となり、それまで講義内容を板書して説明するという従来型の授業を行っていた私にとって、授業変革を迫られた1年でした。オンライン授業の実施が決まり、「授業の質を落とさず、学生の学び

を保障する」ことを目標に定めました。当初はZoomやMoodleの使い方すらわからず戸惑うことばかりでした。そのような中、学長が作成してくださった「オンライン授業の手引き」や週に3回開催していただいたOnline Common Roomという教職員用のミーティング、FD専門委員会による研修などを通してオンライン授業の知識やスキルを修得することができ、本当に助けられました。また、慣れないオンライン授業で手間取っていても、受講生の皆さんは不満を漏らさず様々な提案や助言をして励ましてくれました。お陰で段々とZoomの様々な機能を用いてディスカッションや質疑応答ができるようになり、オンラインでも十分にアクティブ・ラーニングが実施できることを学びました。このような教職員と学生の皆さんによる支援と励ましが今回の受賞につながったと実感しています。今年度は初めて全科目でハイフレックス型授業に取り組んでいますが、今回の受賞を励みに新たな授業づくりに尽力していきたいです。



小金沢裕美子非常勤講師

上智大学短期大学部 2020年度決算及び2021年度予算

(単位：千円)

科 目		2020年度決算	2021年度予算
教育活動収入の部	学生生徒等納付金	570,196	470,002
	手数料	9,260	14,880
	寄付金	630	2,000
	経常費等補助金	86,360	84,282
	(国庫補助金)	(86,360)	(84,198)
	(地方公共団体補助金)	(0)	(84)
	付随事業収入	0	0
	雑収入	55,929	1,634
	教育活動収入計	722,375	572,798
	事業活動支出の部	423,271	359,036
(退職給与引当金繰入額)	(52,888)	(4,383)	
教育研究経費	257,338	170,223	
(減価償却額)	(44,965)	(38,827)	
管理経費	47,036	39,973	
(減価償却額)	(3,128)	(0)	
教育活動支出計	727,645	569,232	
教育活動収支差額	△ 5,270	3,566	
教育活動外収支	事業収入の部	5,383	0
	受取利息・配当金	5,383	0
	その他の教育活動外収入	0	0
	教育活動外収入計	5,383	0
	事業支出の部	0	0
借入金等利息	0	0	
その他の教育活動外支出	0	0	
教育活動外支出計	0	0	
教育活動外収支差額	5,383	0	
経常収支差額	113	3,566	
特別収支	事業収入の部	0	0
	資産売却差額	0	0
	その他の特別収入	1,477	46
	(施設設備寄付金)	(1,170)	(0)
	(現物寄付)	(17)	(46)
	(施設設備補助金)	(290)	(0)
	特別収入計	1,477	46
事業支出の部	1,427	729	
資産処分差額	1,427	729	
その他の特別支出	9	0	
特別支出計	1,436	729	
特別収支差額	41	△ 683	
[予備費]		0	
基本金組入前当年度収支差額	154	2,883	
基本金組入額合計	△ 84,467	△ 16,038	
当年度収支差額	△ 84,313	△ 13,155	

2022年度 上智大学短期大学部学生納付金

(単位：円)

	新 入 生 (2022年度入学者)	在 学 生 (2021年度入学者)	摘 要
入学金	200,000	—	入学時のみ
在籍料	60,000	60,000	年額
授業料	707,000	682,000	年額
教育充実費	200,000	180,000	年額
小 計	1,167,000	922,000	
同窓会積立金	—	20,000	2年次徴収
英語力テスト受験料	9,390	3,130	1年次年3回、2年次年1回
学生教育研究災害傷害保険料	1,400	—	保険期間2年(※)
小 計	10,790	23,130	
合 計	1,177,790	945,130	

(※) 学生教育研究災害傷害保険料については、当初納入した金額に対する保険期間を過ぎて在学する場合、1年毎に納入が必要です。その場合、保険料は1年間で800円です。

2021年度 コミュニティ・カレッジ (公開講座) オンラインで開講

コミュニティ・カレッジは、これまで長年に亘り、秦野キャンパスで地域の方々に生涯学習の場を提供してきたが、2020年度はコロナウイルス感染症拡大防止のため、開講中止を余儀なくされた。2021年度は新しい学びの手段として、オンラインでの開講を決定し、コミュニティ・カレッジを再開した。

現在、秋期講座として、英会話初級・初中級・中級・中上級、スペイン語初級・初中級、小学校英語教育入門の7講座を開講。長年受講を続けられている地域の方々に加え、全国各地からも受講いただいている。

2022年度もオンラインでの開講を予定しており、2022年3月頃に本学ウェブサイト上で講座詳細をご案内、募集を開始予定。

入試日程のご案内

上智大学短期大学部の教育は、キリスト教ヒューマンズムに基づいた教育の精神である「他者のために、他者とともに (Men and Women for Others, with Others)」を国際社会において実践することのできる英語発信力と国際性 (Global Competency) の涵養を目指しています。受験生の皆様には、本学での学びを進路の一つとしてご検討いただければ幸いです。

短期大学部では入学志願者の能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定することを目的とし、多様な入試を実施しています。詳しくは入試要項をご確認ください。

今後実施する入試制度は下記のとおりです。

大学案内・入学願書のご請求は、本学HPトップページのテレメールをご利用ください。



上智大学
短期大学部 HP

種 別	募集人数	出願期間	試験日
一般選抜 A 日程	55	1月4日(火)～1月19日(水) (消印有効) 1月20日(木)・1月21日(金) (短大窓口受付) ^(注1)	2月1日(火)
一般選抜 B 日程	30	1月27日(木)～2月10日(木) (消印有効) 2月14日(月)～2月16日(水) (短大窓口受付) ^(注1)	2月18日(金)
一般選抜 C 日程	15	2月18日(金)～2月25日(金) (消印有効) 2月28日(月)・3月1日(火) (短大窓口受付) ^(注1)	3月3日(木)
総合型選抜 (課題文利用方式)	5	1月4日(火)～3月15日(火) a～eの出願期間があります ^(注2)	出願期間により 異なります ^(注2)
総合型選抜 (TEAP・英検等利用方式C)	10	1月4日(火)～3月15日(火) I～Vの出願期間があります ^(注2)	出願期間により 異なります ^(注2)
総合型選抜 (TEAP・英検等利用方式D)	6	1月11日(火)～3月4日(金) A～Wの出願期間があります ^(注2)	出願期間により 異なります ^(注2)

(注1) 一般選抜A・B・C日程は、上智大学短期大学部(秦野キャンパス)で窓口受付を行います。

(注2) 総合型選抜の課題文利用方式(a～e)、TEAP・英検等利用方式C (I～V)、TEAP・英検等利用方式D (A～W)の日程の詳細は本学ホームページでご確認ください。